



平成 28 年 4 月 1 日

各 位

会 社 名 ネ オ ス 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 池 田 昌 史
(コード番号：3627 東証第1部)
問 合 せ 先 常務取締役兼執行役員 中 野 隆 司
経営管理部長
(TEL. 03-5209-1590)

業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 4 月 14 日に公表いたしました平成 28 年 2 月期（平成 27 年 3 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正するとともに、平成 28 年 2 月期第 4 四半期において計上することとなった特別損失について併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 28 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 27 年 3 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 5,800	百万円 150	百万円 150	百万円 100	円 銭 11.72
今回修正予想(B)	5,568	77	82	29	3.43
増減額(B-A)	△232	△73	△68	△71	—
増減率(%)	△4.0	△48.7	△45.3	△71.0	—
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 2 月期)	5,333	△413	△376	△982	△116.12

2. 修正の理由

スマートフォンの普及進展に伴う携帯電話業界の大きな構造変化の中で、当社は平成 27 年 2 月期の業績悪化を受け、事業の再構築に取り組んでまいりました。この結果、平成 28 年 2 月期の業績は昨年度の赤字決算から転じ、黒字化を達成することが確実となりました。事業別にみると、ソリューション事業については、一般法人やサービスプロバイダー向け事業の拡大を図る一方、プロダクト&サービス事業では、ビジネスコミュニケーション等の法人向けサービスや教育コンテンツ、ゲームコンテンツ等、様々な新しい事業に取り組んでいます。しかしながら、プロダクト&サービス事業においてゲーム市場への参入が当初 2015 年秋の予定から 2015 年 12 月末に遅延したことや、ビジネスコミュニケーションの新製品の投入が、2015 年夏の予定から 2015 年 12 月に遅延したこと等により、立ち上げコストに見合う売上高が計上できず、結果として当初

予想に比べ利益貢献いたしませんでした。

以上の要因により、売上高、営業利益、経常利益の予想数値を修正いたします。また、当期純利益に関しましては、今回発生した特別損失（下記「3. 特別損失の発生について」参照）の計上により、予想数値を修正するものです。

3. 特別損失の発生について

平成28年2月期第4四半期連結会計期間において、ソフトウェア資産の減損、及び事務所フロア一部移転による損失の発生により、合計65百万円の特別損失を計上いたします。その主な内容としましては、将来収益の見込めないサービスの展開及び開発継続の中止に伴うソフトウェア資産の減損処理による損失40百万円を計上すること、及び当社の事務所フロアが一部移転した事による事務所移転費用25百万円を計上することによるものです。

なお、配当予想につきましては、1株あたり1円50銭からの変更はありません。

（注）上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況等の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上